

平安京右京一条三坊三町跡現地説明会資料

2006年11月18日

調査地：京都市中京区西ノ京大炊御門町19-4
調査期間：2006年10月16日～12月22日(予定)
調査面積：約400㎡(現在西半約230㎡)
調査主体：(財)京都市埋蔵文化財研究所

調査の概要

この調査は京都上労働基準監督署の建替え工事に伴う発掘調査です。調査地は平安京右京一条三坊三町にあたり、南側は勘解由小路に面しています。また、これまでに実施された周辺の調査では平安時代の建物や土壌、溝などがみつかり、平安時代の遺構が良好に残っていることが予想されていました。

今回の調査

今回の調査では平安時代の建物2棟と柵列2列、土壌がみつかりました。

建物1 調査区の北側で発見した東西3間以上・南北1間以上の掘立柱建物です。身舎の南側柱列とその南側に取り付く庇の柱列とみられます。柱間は約2.4mで、柱穴の掘形は一辺が約0.6mの隅丸方形です。また、底には造り替えが認められます。

建物2 調査区の東側で発見した掘立柱建物で、建物の西半分がみつかりました。現在のところ、身舎が南北2間(5.4m)東西1間(2.7m)以上で南側と西側に庇が付く建物とみられます。柱穴の重複関係から建物1よりも新しいと考えられます。

柵列3 南北方向の2間以上、柱間は2.7mある柵列です。南端が建物2と揃っており、これと同時期のものと考えられます。

柵列4 柵列3の東側で発見した南北方向の柵列です。方位が北に対して大きく東へ傾いており、柱穴の規模も他の遺構に比べて小さい特徴を持っています。

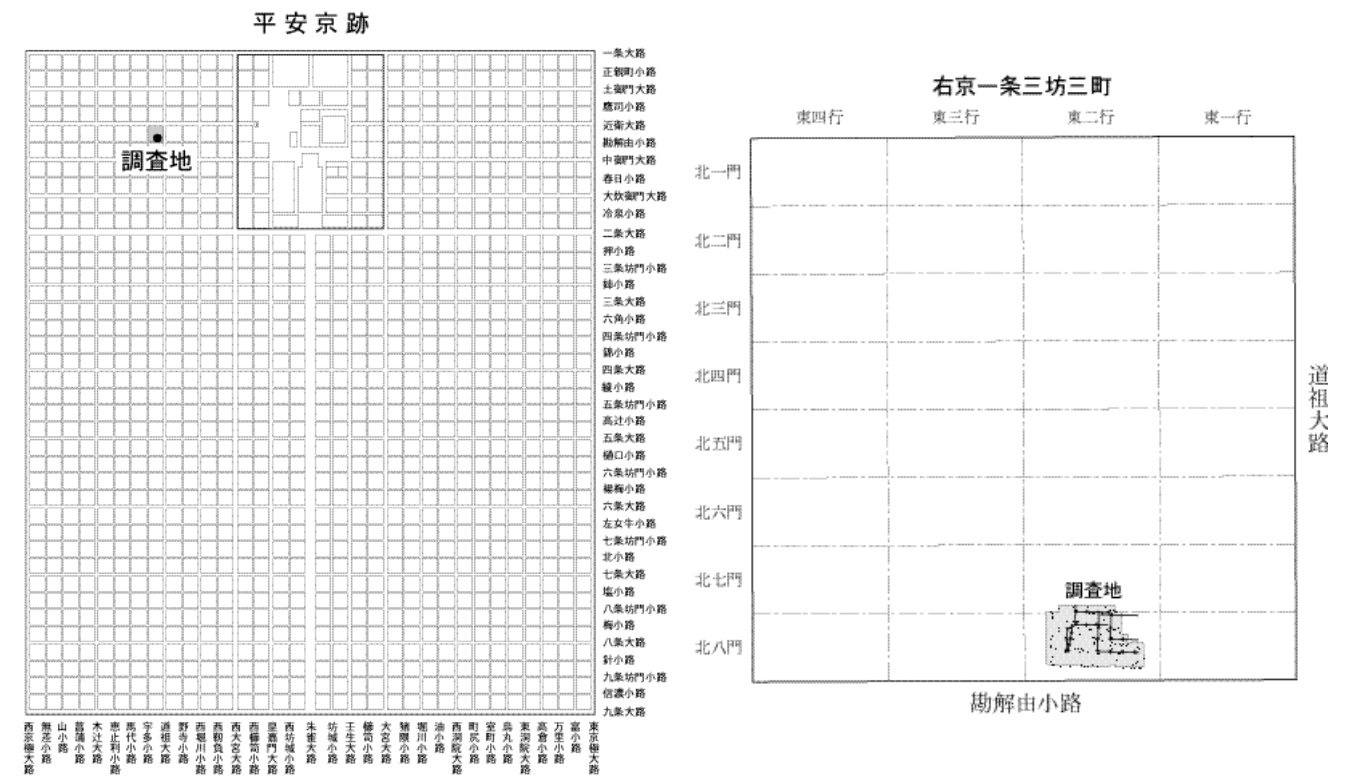
土壌5 調査区の中央部分で発見した一辺約0.4mの隅丸方形の土壌です。中に平安時代中期(10世紀)の土師器(皿・甕)が大量に埋納された状態で見つかりました。地鎮などの祭祀に係わる遺構と考えられます。重複関係から、建物1・2よりも新しいと考えられます。

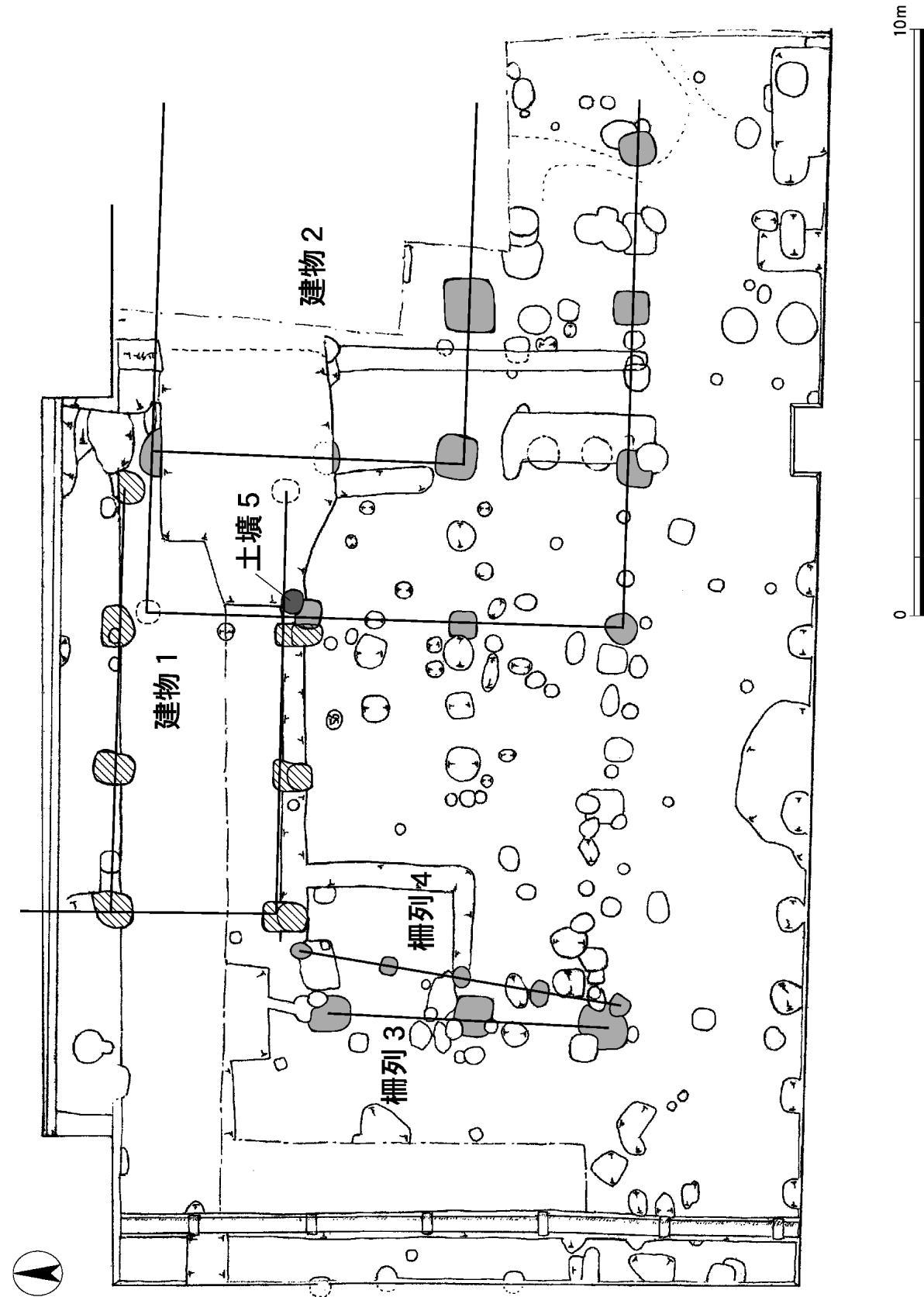
まとめ

- 今回の調査でわかったことをまとめてみます。
- 平安時代中期以前の建物や柵列などが3時期にわたってみつかり、当地がこの間、宅地として利用されていたことがわかりました。
 - 土器を大量に埋納した土壌がみつかり、平安時代の祭祀の一端を知ることができました。
 - 当地は、平安時代以降、近代までは耕地となっていることが明らかとなり、平安時代の遺構が浅いところで良好に遺存していることが明らかとなりました。
- 今後、敷地の東側を継続して調査することになっています。建物の規模などがより明らかになっていくものと考えられます。

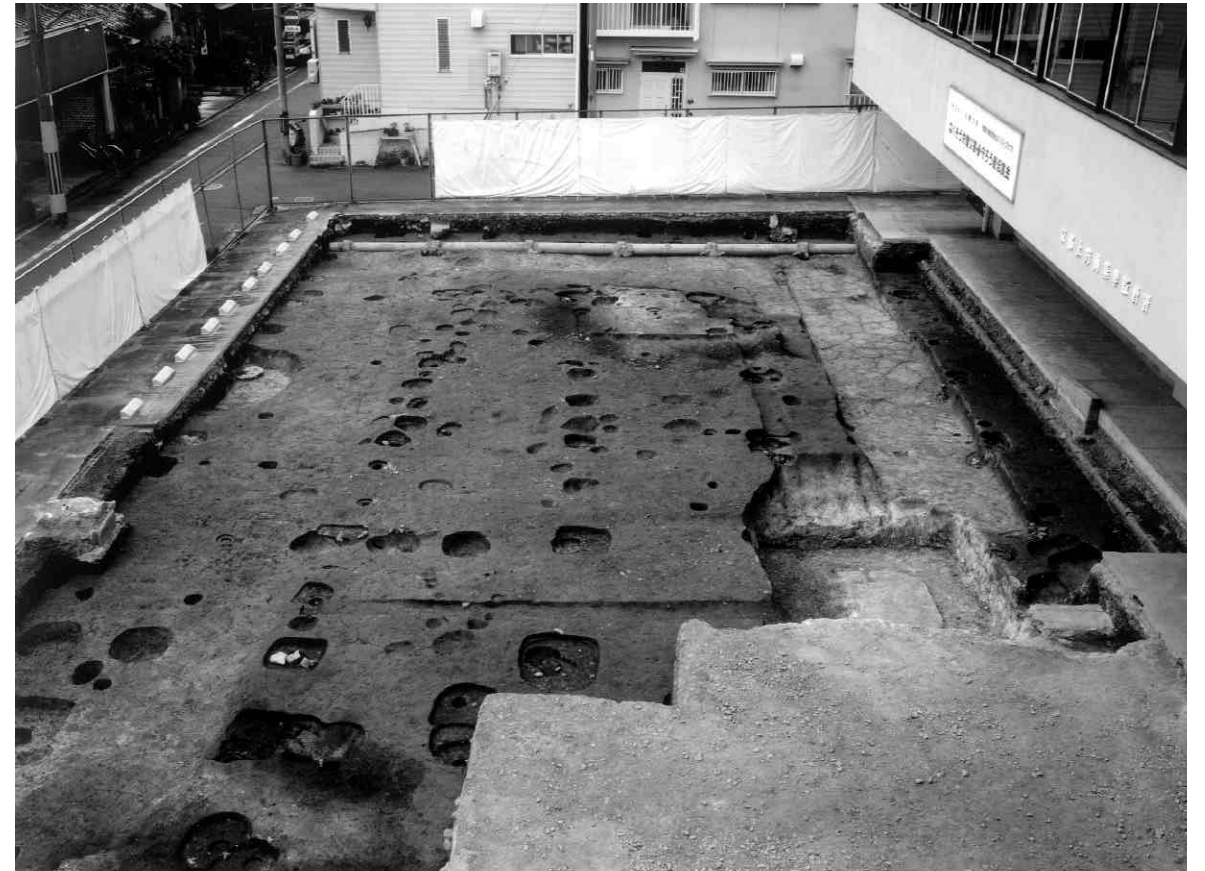


調査位置図(1:5,000)





調査区平面図 (1 : 100)



調査区全景 (東から)



建物 1 (東から)



土坑 5 遺物出土状況 (北東から)